

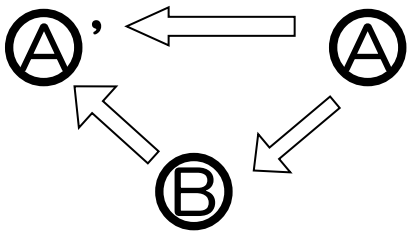
初任研を兼ねた授業研でした。授業者の加藤先生、2年生の先生、お疲れさまでした。また、教科の授業研としては、本年度最後の授業研でした。課題設定の工夫という点での方向性を国語でも考えることができる提案でした。ありがとうございました。

全員で「共有」し、「だれでも」できる「短期目標」を提案していきます。

☆今回のポイント☆

①比較について

<一文法>の活用



物語の中で、どこを切り取ってもこの構造で考えることはできる。

- ・物語全体を一文で表す。
- ・場面や段落の中で“よく似た表現”の比較。
- ・挿絵で。

《例》

なぎそう
おこりそう

じっと
ノートを見ていた。

じっと
ノートを見た。

じっと
ずっと。

わらった

← B →

← A' →

← A →

今回の板書は、視覚的にわかりやすく、変容を捉え、比較するのに、とても有効でした。

ワークシートは、子どもの自由な読みから考えが深まり弾けていくような、ゆとりがあってもいいですね。



物語の筋を、因果関係を考えて読み解く。似ているけど違うところに気づかせ、取り出して、比較することで子どもの思考を深める。

一文法には必ずズレが生じる。一つにまとめるのではなく、重ね合わせたり、響き合わせたりして深めていくことが有効。

②動作化ついて

- ・いつ動いた？
- ・どんな動き方？（様子）
- ・なぜ違う？
（同じような場面の動きの比較）

<必然性のある動作化を！>

やってみることでわかる

物語に描かれていないが、叙述に即してやってみると、動かざるを得ないところ。

インタビューして心情（理由）を問う

あえて他視点で考えることも有効。

《例》 『わたしはおねえさん』

視点人物は「すみれちゃん」

一か所（三場面）のみ、客観視点で描かれている。



すみれちゃんは知らない・読者だけわかっている場面



この場面の妹の思い、妹から真似され慕われている自分に気づいていくことでお姉さんであることを自覚するすみれちゃん。

視点を变えて、ここでのかりんちゃんの行動の意味を考えるために、かりんちゃんについて動作化する。

※ただし、1時間の中で視点がブレると混乱するので、別時間に設定した方が有効。

かりんちゃんの視線、動き、気持ちに気づくことが、すみれちゃんの自覚につながる。

動作化の必然性を！

☆必然性のある「学習課題設定」へ・・・

「比較」から「めあて」の設定

共通点を子どもに見させる

（本文に即して）

「前にも同じようなことなかった？」



違いに気づき、新たな課題を見つける

<比較の材料>

色彩語

中心人物と対人物の関係性

人物設定から

反復される表現

名脇役の存在

場面分けから

既習作品の構造や設定と・・・

物語の構造は、いくつかのパターンに限られる。

その中で様々な視点で比較することが思考を深めるのに有効である。

動作化などの活動にも必然性を意識していく。

※学年内の教材配列を意識し、共通点や比較の視点を探す。他学年の教材との関連なども関心をもって教材研究すると良い。

比較して、共通点を見出させ、
その上で
新たに違いに気づかせる！
“子どもを困らせる！”
=必然性